

1. 地域意見交換会開催参加者数

学区	第一学区	第二学区	第三学区	第四学区	立川地区
開催日	8月16日（水）	8月25日（金）	8月24日（木）	8月29日（火）	8月31日（木）
開催場所	第一まちづくりセンター	第二まちづくりセンター	第三まちづくりセンター	第四まちづくりセンター	立川まちづくりセンター
参加者数	14名	22名	20名	35名	29名

2. 質問・意見

○【質問】施設に関すること。

<b>一小、二小、三小は別々に立て直す可能性もあるということか。</b>	第一学区
⇒ 一小、二小、三小は優先的に対応し、1校が望ましいというのが審議会の意見になる。	
<b>一小、二小、三小は一緒にして新築の校舎を建てるということはわかったが、四小と立小はそれぞれ新築するというのか。</b>	第二学区
⇒ 仮に四小と立小はそれぞれの学校のままとした場合は、既存の校舎を長寿命化などしながら対応する予定である。	
<b>四小、立小は築何年か。</b>	第一学区
⇒ 四小が昭和51年建設で築47年経過。立小が昭和48年建設で築50年経過。余中は昭和61年建設で37年経過。立中は平成7年建設で築27年経過している。	
<b>今後のスケジュールで統合するまで8年くらいかかるようであるが、一小、二小、三小は早急な対応が必要だということであるが、建物はもつのか。一小、二小、三小は耐震性の問題はないのか。</b>	第一学区 第二学区
⇒ この3つの小学校については10年くらい前に耐震工事をしているので、耐震性に問題はない。大きな地震があった場合は、建物にまったく被害がないということあり得ないと思っている。子どもたちの命を守る、そういう建物の強度はある。新しい校舎が完成するまでは、適正な維持管理をしていく。	
<b>一小、二小、三小を1校にするということでもかなり広い敷地が必要だと思うが、建てる場所などは見通しがあるのか。</b>	第二学区
⇒ 未定です。	
<b>統合した後、既存の使わなくなった校舎はどうなるのか。</b>	立川地域 第二学区
⇒ 再利用するのは難しいと考えているので、将来的には解体することになると思うが、財政的なこともあるので、財政当局と話し合う必要がある。既存校舎の利用については今後の検討になります。	
<b>一小、二小、三小の校舎を建て壊した後は、何か建てるのか予定はあるか。</b>	第一学区
⇒ 現在の校舎の部分は学校としては使わないが、地域の避難所になっていたりするので、今後の検討が必要になる。活用の仕方は審議会では意見としてでていない。	
<b>小学校の跡地利用については、何か制限などがあるのか。</b>	第二学区
⇒ 国の補助を使って建てているが、ある程度の年数が経てば制限はない。他の施設として利用することは可能である。	
<b>一小、二小、三小は早急な対応が必要だということであるが、具体的にはどのくらい期間を考えているのか。</b>	第四学区
⇒ これから最短で段取りしても、着手してから7～8年くらいかかる想定をしている。（その間は耐震的には適切な管理をしていく）	

<b>余目中学校について、長寿命化改修をして、これから30年、40年耐えられると考えているのか。</b>	立川地域
⇒ 長寿命化改修することで、概ね30年は使えると考えている。コンクリートの躯体がしっかりしていれば、水回りなどの設備等を直せば十分使えると判断している。	
<b>小学校が一小、二小、三小と四小、立小の2校となった場合は中学校はどこに通うのか。</b>	第三学区
⇒ 審議会の中では、中学校は1校としているので、そこに通うことになると思います。	
<b>今現在の各学校、各教室の冷房設備の設置は何%になっているか。</b>	立川地域
⇒ 一部の学校の音楽室や図工室などの特別教室を除き、冷房設備は設置されている状況である。	
<b>Wi-Fi環境やエアコンなどの備品関係は使えるものは使って対応するのか。</b>	第一学区
⇒ 耐用年数などあるが、使えるものは使って対応する。	

○【質問】コストに関すること

<b>中学校の改修、小学校の新築ということで、お金はどのくらいかかるのか。</b>	立川地域 第一学区 第二学区 第三学区 第四学区
⇒ パターンを決めて試算した場合の金額になるので、段階的に統合した際は金額が変わってくる。パターン1については、一小、二小、三小が統合して1校となり新築、四小、立小はそれぞれ長寿命化改修した際の試算が43億円。パターン2については、一小から四小までが統合して1校となり新築、立小が長寿命化改修した際の試算が40億円。パターン3については、一小、二小、三小が統合して1校となり新築、四小か立小のどちらかを長寿命化改修した際の試算が35億円。パターン4については、初めから5つの小学校を統合し1校とし新築したとして試算すると33億円になる。これには、用地買収にかかる費用は含まれていない、あくまでも建物の金額の試算になる。	
⇒ 余中の長寿命化で、建物だけで約16億円。	
<b>財源はどうするのか。</b>	第一学区
⇒ 財政当局には頭出し程度しかしていない。具体的に、国の補助、町の起債の部分については今後、詰めていく内容になる。	
<b>この意見交換会を今後の審議会の検討の参考にするとのことだが、審議会の中で中学校は余目中学校を長寿命化改修で使うと話されている中で、余目中学校の長寿命化基本設計が本年度、予算化されているということはどういうことか。</b>	立川地域
⇒ 余目中学校については築35年ということで、統合して余目中学校を使うにしろ、使わないにしろ、あと数年間余目中学校を使わないといけないことになるので、その辺も踏まえ、途中で軌道修正することも考えたうえで予算化して執行している。	
<b>中学校の改修について、国の補助率が1/3から1/2に変わったようだが、余目中学校を改修する際に該当するのか。</b>	立川地域
⇒ 確認する。	

○【質問】統合に関すること

<b>小学校の学区を再編成する際に、集落単位で再編した方が、通学時間とか調整しやすいと思うが、現在の学区が最小単位というのは何か理由があるのか。</b>	第二学区
⇒ 歴史的背景や地域のつながりなどを考慮すると現学区の中での分断は望ましくないと審議会の中で話が出ている。	

<p><b>60年前くらいに余目地区では学区の編成についての議論がされた。その際、幼稚園と小学校と公民館は各地区に造り、学校教育と社会教育を一貫した地域教育の役割を果たすというような議論がされたと聞いている。審議会では、新しい庄内町の小学校を特色ある小学校にするためにどのような形が望ましいかということは審議会でも議論されたか。</b></p>	<p>第三学区</p>
<p>⇒ 幼稚園をどうするかということと一緒に議論してしまうとなかなか結論が出ないことが考えられたので、とりあえず、小学校と中学校を先に議論しようという考え方で進めてきた。そこで結論が出た場合、自ずと幼稚園の方向性も見えてくるかと思っている。また、まちづくりセンターについては、仮に小学校が統合した場合でも、今のまちづくりの単位は当面継続していくものと担当課から聞いている。審議会でも意見は出たところであるが、深くは話し合われなかった部分になる。</p>	
<p><b>状況によっては、鶴岡の藤島地域の学校や羽黒地域の学校の方が近い人が出てくるのではないかと考えるが、本来の学区以外の学校に通うことは可能なのか。</b></p>	<p>第二学区</p>
<p>⇒ 通う学校は原則、住んでいる学区の学校に通うことになるが、いじめなど重大な事情がある場合や、中学2年生、3年生、小学6年生など転居によるものは、卒業まで近いので他の学区に異動するのは可哀そうな思いをするということで、今までの学校に通うことが可能になっている。</p>	

○【質問】通学時間に関すること

<p><b>通学時間について30分未満が望ましいとしているが、遠くなれば、実際はもっと時間がかかる子どもがでてくると思うがその辺はどう考えているのか。</b></p>	<p>第二学区</p>
<p>⇒ 仮に小学校を現在の余目中学校付近を想定した際に、庄内町で一番遠い集落が瀬場集落になり、1時間程度かかると見込んでいる。</p>	
<p><b>小学校を1校とした際に一番遠い子どもで1時間もスクールバスに乗るようであれば無理でないか。今現在、その集落に子どもがいなくて、今後、移住なども含めて子どもがいるような状況になったらどういう対応をするのか。</b></p>	<p>第二学区</p>
<p>⇒ お子さんが学校に通う手段については町として考えていかなければならない。スクールバスを配車したり、時間が長くなるだろうという心配もあると思うが、そのような場合は、スクールバスの中での乗車時間を上手く活用した方法も考えたらどうかという意見が審議会では出ている。</p>	
<p><b>中学校が1校になった場合、一番遠い生徒は通学時間はどのくらいかかるか。</b></p>	<p>第一学区</p>
<p>⇒ 立谷沢地区の瀬場集落が一番遠い集落になり、経路の仕方もあるが、だいたい1時間くらいである。令和11年度を想定した際、子どもがいると想定される集落は鉢子という集落を想定しているが、そこからだと45分程度と想定している。</p>	
<p><b>国や県で通学時間、通学距離の基準は出しているのか。</b></p>	<p>第二学区</p>
<p>⇒ 参考資料になるが、通学距離が小学校が概ね4キロ以内、中学校が概ね6キロ以内、通学時間は概ね1時間以内となっている</p>	

○【質問】スクールバスに関すること

<b>スクールバスの乗車基準を教えてください。冬期間、暑い夏にはスクールバスの対応をお願いします。</b>	
⇒ おおよその目安で学校から3キロ以上の集落は通年スクールバスで対応。2キロ以上の集落は冬期間スクールバスの対応になっている。基準以外でも天候の状況に応じて臨時的にスクールバスの対応を行っている。	第二学区

○【質問】その他

<b>近隣市町村との連携、情報交換はしているのか。</b>	立川地域
⇒ 特に担当者レベルの話はない。遊佐町が今年度、小学校が統合したが、先進事例ということで、話を聞いて参考にしている。	第一学区 第二学区
<b>幼稚園はどうなるのか。</b>	
⇒ 人口の推移からして幼稚園についても同様の検討が必要かと考えているが、一緒に考えると協議に時間がかかってしまうと予想されたので、審議会では、まずは、小学校と中学校に関して方向性を決めてもらうよう話を進めている。	第二学区
<b>子どもたちが通いたくなるような魅力的な学校とはどのようなものを計画しているのか。</b>	
⇒ 審議会の中では、ICTなどの環境設備が整った学校など、また、運動スペースなどの確保などが挙げられている。タブレットを使った授業等もいろいろあると思うが、学校のどの場所でも通信環境が整っていて、情報を引き出したり印刷できたりなどICT化が進んだ学校、これを重点的に整備してはどうかという意見が出ている。	第三学区
<b>庄内町は教育にかけられるお金が厚いと聞いている。小学校が1校となったときに、今の庄内町の教育の良さは保たれるのか。</b>	
⇒ 学校数が減ったとしても、町当局と相談しながら教育にかけられるお金は十分確保していきたいと考えている。	第三学区
<b>部活動の移動についてはどう考えているか。</b>	
⇒ 審議会の中でも出た話になるが、今後、統合すると決まった段階でどのようなことが考えられるか、検討させていただきたい。	立川地域
<b>アンケートはどのように実施されたのか。</b>	
⇒ 令和4年6月に実施した。一般住民については20歳以上75歳以下で1000人。地域、年代、性別がバラバラになるように調整した。保護者については、保育園、認定こども園、幼稚園、小学校、中学校の保護者世帯すべて抽出し1221人。教員140人を対象にしている。	第二学区
<b>立川地域に関して、小中一貫校の話が出たと説明があったが、余目地域ではそういう話はなかったのか。</b>	
⇒ 審議会の中では、余目地域に関しては、小中一貫校の話はでなかった。	第二学区
<b>複数学級と複式学級の違いは</b>	
⇒ 複数学級は1学年で2クラス以上あること、複式学級は二つの学年を合わせ1クラスとなるものを言う。学級編成にあたっては、国、県で基準が定まっている。	第三学区

○【意見】施設に関すること

<b>統合した小学校が余目地区の中心に建てられたら、立谷沢の子どもたちはほんとに大変になる。中心的な四小付近への建設を望む。</b>	立川地域
⇒ 意見として、審議会に報告する。	
<b>山形市で新しい小学校を造ったら、周辺の分譲が進み児童数が増え、教室が足りなくなるような事態が起きているという話を聞いた。庄内町も人口増加の起爆剤となるよう、場所の選定については、教育関係者だけでなく、町の開発も絡ませて進めていった方がいいのではないかと。</b>	第三学区
⇒ 小学校をどこに建てるか、場所の選定などについては、具体的に何も話し合われていない。ご意見ということで今後の進め方に活かさせていただく。	

<b>今の余目中学校を小学校にして、一、二、三小の校舎として利用してはどうか。</b>	
⇒ 仮に一、二、三小を統合した場合は、1学年3学級、もしくは、4学級と想定している。3学級の場合は、6学年で18教室必要になるが、現在の教室の使い方として、一クラスごと全員で受ける授業の他に習熟度別に分かれてやる授業もあり、対応する教室が必要となる。他に特別支援学級用の教室も必要になってくるので、教室の数が足りなくなるのではないかと思われる。細かく試算したわけではないので、試算し、審議会に報告する。	第四学区
<b>今の余目中学校を小学校として使うことに賛成である。中学校は立川、余目、両地域の中間地点に建てることも検討してもらい。</b>	
⇒ 審議会の中でも、検討されてきたが、さまざま比較検討した結果、既存の余目中学校を長寿命化で利用することが望ましいとしてまとまったところである。このような意見があったことを審議会に報告する。	第四学区
<b>中学校は余目中学校を長寿命化改修して利用していくという案に賛成する。</b>	
⇒ 意見として、審議会に報告する。	立川地域
<b>小学校と中学校は隣合わせで建ててほしい。</b>	
⇒ 意見として、審議会に報告する。	第二学区

○【意見】コストに関すること

<b>小学校の学校整備について、段階を踏まず、当初より1校とした方が、経費的にも時間的にもいいのではないかと。段階的移行は無駄が多い。</b>	
⇒ 意見として、審議会に報告する。	立川地域 第二学区
<b>3つの小学校をすべて廃校として処理するとコストがかかるので、例えば二小の既存校舎を利用して対応はできないのか。児童数が減っている中で、全部の小学校を合わせても3クラスあれば足りるのではないかと。</b>	
⇒ 学校の規模からして、敷地が足りないと考えている。審議会では、どこの場所に建設するまでは具体的なものは出ていない。意見として伺っておく。	第一学区
<b>新しい校舎を建てる際は、メンテナンス等維持管理費がかからないような見通しをつけて造ってもらいたい。</b>	
⇒ 意見として、審議会に報告する。	第二学区

○【意見】統合に関すること

<b>小学校の整備の仕方については、パターン3（一、二、三小を一つの学校、四小と立小を一つの学校）を望む。</b>	
⇒ 意見として、審議会に報告する。	立川地域 第四学区
<b>小学校の学区の編成について、パターン2（一、二、三小、四小が1校、立小が1校）か、パターン4（すべての学校が1校）を望む。</b>	
⇒ 意見として、審議会に報告する。	第四学区
<b>一、二、三小を一つの学校として考えているようであるが、町内の小学校の児童数のバランスを考えると、一と三小、二と四小と立小を一緒にした方がいいのではないかと。</b>	
⇒ 審議会の意見では、施設の安全性の確保について急がなくてはならないことから、一、二、三小は優先的に対応、これは1校として進めるのが望ましいという考え方になっている。いただいた意見については、審議会に報告する。	第一学区
<b>小学校の整備の仕方について、パターン4の町内小学校1校は大変だと思う。立川地域のことを考えないと、若い夫婦など便利のいい場所へ引っ越してしまうのではないかと。</b>	
⇒ 意見として、審議会に報告する。	立川地域

<p>中学校の統合を最優先で進めるべきだ。現在の立川中学校の状況は、健全な教育環境に置かれていない。適正規模になっていないので、中学校の統合を先に行うべきである。小学校の議論は、そうこうしている間に1校でまとまるのではない。</p> <p>立川中学校の子どもたちが、もっとバイタリティある活動ができるように環境を整えてもらいたい。</p>	立川地域 第三学区
<p>⇒ 審議会の話し合いの中では、小学校と中学校、どちらを先に進めるべきか、まだ、具体的な意見は出ておりません。次回、審議会にこのような意見があったことを報告させていただきます。小学校については、令和11年度までの規模しかわからないので、今後どうなるか予想もつかない。ご意見としては、最初から1校とした方がいいのではないかとということであったが、今後の子どもの数を実際見たうえでの判断になると思うが、意見として、審議会に報告する。</p>	

○【意見】通学時間に関すること

<p>小学1年生の子どもが片道1時間の通学時間は酷である。</p>	第二学区
<p>⇒ 意見として、審議会に報告する。</p>	
<p>通学距離が30キロを超える地域も出てくる。子どもたちにとっては大きな負担になる。</p>	立川地域
<p>⇒ 審議会の中でも話は出ている。トイレ休憩、乗車時間の利用、登校、下校時間など最大限の配慮が必要だという意見が出ている。</p>	
<p>スクールバスで長時間かけて通う子が不登校になった際に改善するのが非常に困難だという話を聞いたことがあるが。</p>	第三学区
<p>⇒ 運行のやり方、経路地を減らす、最短で直接送迎するなど若干でも短縮できる工夫をしていきたい。</p>	

○【意見】スクールバスに関すること

<p>スクールバスについて、今後児童数も少なくなっていくことなどから、近い、遠い、多い、少ない関係なくすべてスクールバスでの対応をしてもらいたい。命に係わる部分である。</p>	第一学区
<p>⇒ 教育委員会の基本的な考え方は歩くことが基本である。歩くことで健康な体づくりができた、登校班を組むことで上下関係を養ったり、ちょっと辛いことも経験して我慢することを身に付けたりできることなどメリットの方が大きいと考えている。そのうえで、概ね3キロ以上の集落は通年バスで対応したり、概ね2キロ以上の集落は冬期間だけバスで対応しているのが現状である。（特別な事情がある集落も該当）今後もこの考え方でいくかについては、内部で検討する。</p>	
<p>スクールバスについて、全地域対応を進めてもらいたい。歩く機会を設けるためには、集落ごとの駐車場でなくて、近いところは代表で駐車場などを設定するなど考えられるのではないかと。</p>	第一学区
<p>⇒ 意見として何う。内部で検討する。</p>	
<p>スクールバスだけでなく、さまざまな方法を模索してほしい。</p>	第二学区
<p>⇒ 意見として、審議会に報告する。</p>	
<p>スクールバスの運行について、部活動も対応してもらいたい。余目中学校を長寿命化するという事で、余目地区の人にとっては異論がないと思うが、立川地区の人にとっては、いろんな思いがあると思うので、丁寧に進めていく必要があると思う。</p>	第一学区
<p>⇒ 部活動のスクールバス対応については、部活動の地域移行について検討している組織の方で話題となっている。今後、詰めていく内容になる。</p>	
<p>スクールバスの仕様について、長時間乗るのであれば、クッション性の高い座面にしたり、テレビモニターを設置して学習に役立てるとか、トイレが設置されているバスなどの導入も考えてみてはどうか。</p>	立川地域
<p>⇒ 今後の検討する。</p>	

<p>スクールバスについて、バスに乗り遅れてしまったり、体調が悪く朝はいけなかったが、昼頃から体調がよくなったとしても、学校に行くすべがないのが現状である。学校に行きやすい仕組みをつくってもらえるとありがたい。</p>	第三学区
<p>⇒ きめ細やかな運行で、保護者の方、お子さんになるべく負担がかからないような運行、学校への行き方について検討していきたい。意見として伺う。</p>	

○【意見】地域に関すること

<p>審議会で話し合われている内容がどうしても、余目に寄りがちな意見になっているのではないかと。</p>	立川地域
<p>⇒ 意見として、審議会上に報告する。</p>	
<p>小学校、中学校をすべて余目の中心へもっていくと、立川に住む人がいなくなる。</p>	立川地域
<p>⇒ 意見として、審議会上に報告する。</p>	
<p>立川地域から小学校、中学校がなくなると人がいなくなってしまう。さまざまな施設が、町の中心地に集中していて不平等感を感じる。</p>	立川地域
<p>⇒ 意見として、審議会上に報告する。</p>	
<p>立川地域のことを考えると、学校など大きなものがすべて、町場の方に集中し、過疎化に拍車をかける結果となっている。余目の中心部に学校を建てるというようなことは、立谷沢方面の子どもたちの負担になる。子どもの視点も頭に入れながら進めてほしい。</p>	第四学区
<p>⇒ 審議会上の中でも話し合われてきた内容であるが、このような意見があったことは、審議会上に報告する。</p>	
<p>小学校の場所を決める際に、町内の中間地点という話が出ているが、余目地域の町場の人はどう思うか。今までの学校統合の歴史的なところ考慮すると地域の感情的なものが絡んでくる。余目の人たちの意見も十分聞いた方がいいのではないかと心配している。</p>	立川地域
<p>⇒ 余目地域一小、二小、三小学区で意見交換会をしてきたが、小学校の建設の場所について、町内の中間地点に建設した方がいいのではという意見は出ていなかった。このような意見が出たことを審議会上に報告する。</p>	
<p>まちづくりのビジョンをつくるにあたって、小学校は学区割の大元である。地域づくりと小学校の在り方は深い関係にある。将来のまちづくりを考えていく場合、地域まちづくりと小学校の議論は一緒に進めていくべきでないか。</p>	第三学区
<p>⇒ まちづくり担当課と丁寧な打合せをしながら進めていきます。</p>	
<p>地域と学校とのつながりは、放課後子ども教室で子どもを通じて形成していけるのではないかと。</p>	第四学区
<p>⇒ 意見として、審議会上に報告する。</p>	

○【意見】その他

<p>小学校が統合することに関して、小学校以外で地域でやっていること、例えば、学童とか、そちらと連携、コミュニケーションをとった形でスムーズに進むようお願いする。</p>	第一学区
<p>⇒ 小学校の学校の地区の再編と、現在地域づくりで行っている地域の活動は別なものと捉えている。まちづくりセンターについてはそのまま残っていくのではないかと考えている。担当課と丁寧な打合せなどして調整していく。</p>	
<p>今後、児童生徒数が減少していくということで計画を立てているが、もし、増えた場合、また、人口を維持できた場合のことも計画しておいた方がいいのではないかと。</p>	立川地域
<p>⇒ 町の総合計画の人口推移にビジョンについては、さまざまな要因を加味したうえでの想定と考えている。審議会上には、人口が増えた場合ということでは資料提供していなかったもので、話し合わなかった状況になる。</p>	

幼稚園について、今は別にして考えるという話があったが、小学校と幼稚園は一緒と考えた際は、用地の選定など考慮しないといけないのではないか。	第二学区
⇒ 幼稚園については、別の組織を立て検討していく必要があると考えている。	
質の高い教育が魅力ある学校につながると思う。	第三学区
⇒ 質の高い教育については、庄内町として目指してやっていきたい。	
さまざまな個性のある子どもがいる中で、みんなが一緒に過ごせる学校にしてほしい。（支援の必要な子どもも含む）	第三学区
⇒ その子の特性を見ながら、通常学級、特別支援学級、特別支援学校などどの場で学ぶことが、その子にとって一番いいか、保護者と話し合いながら決めているところである。それぞれのメリット、デメリットもあるので、保護者に十分説明したうえで、見学などもしてもらって判断してもらって進めている。	
近代的な学校もいいが、地域として助け合いができる、人が優しいなどそういう魅力の学校を造ってほしい。	第三学区
⇒ そういうことも重点的に力が入られるよう教育目標を考えていきたい。	
子どもたちの教育が大人の都合で振り回されることがないように配慮してほしい。	立川地域
⇒ 意見として、審議会上に報告する。	
若い世代、保護者となる世代の意見集約ができたらいいかと思う。	立川地域
⇒ 昨年度に実施したアンケート調査では、保護者世代を対象に回答をもらっているところであるが、地域意見交換会への参加を見ると保護者世代の参加は少なかったと思う。検討する。	
小学校の教育の過程で地域とのつながりが大切だと感じているが、通うのは子ども、実際教育を受けるのは子どもである。子どもを持つ保護者の意見を多く聞いて取り入れてもらいたい。	第二学区
⇒ 意見として、審議会上に報告する。	
今回の意見交換会については、子育て世代についてはもう少し関心があるものと思っていた。情報発信をうまくして多くの人に関心が集まるように工夫してほしい。	第一学区
⇒ 情報発信は非常に大切である。より努力していく。	
致道館の受験のことを考えると中学校の人数が予想よりも減る可能性があるのではないか。	第二学区
⇒ 今年度より受験が始まる。今現在では見当がつかないので、次年度以降、将来的なことを考えていきたい。	
学校に行きたくても、体調不良などでいけない子どももいる。リモートの授業をもっと活用してほしい。	第三学区
⇒ 現在もタブレットを活用し、リモートによる授業を受けている子どももいる。学校の様子がわかったり、学習面での不安が解消されたり、状況の改善などにもつながると考えるので、今後も進めていきたい。	
学童保育施設は学校施設内に設置してほしい。	立川地域
⇒ 担当課へ報告する。	
清河八郎など、地域に関する授業を取り上げ、郷土愛を育ててほしい。	第四学区
⇒ 教育基本目標の中で地域に関するところもあるので、統合したとしても引き継いでいきたい。	
1年生から6年生までと一緒に給食が食べられるような広いスペースのオープンスペースを希望する。	第三学区
⇒ このような意見があったことを次回、審議会上に報告する。	
小学校、中学校の整備の話をする前に、第一学区の学童施設が古すぎるのでそちらを先に対応してもらいたい。	第四学区
⇒ 教育委員会とは別の課が担当になるが、その辺は連携をとって今後協議を進めていきたい。意見があったことを担当課に伝える。	
給食の無償化も進めてもらいたい。	第四学区
⇒ 今年度、半年間分は無償化ということで取り組んでいる。町の方でも今後、無償化に近づこう進めていきたいとは考えている。	